

遺跡って？

みなさんの足元、地面の下にはなにがあると思いますか？実は、そこには大昔の人たちが生きていた形跡が埋まっています。私たちはそれを遺跡と呼び、調査をしています。地面の下は、大昔の時間がそのまま閉じ込められた「タイムカプセル」なのです。

発掘調査ってなに？

地面を掘って、昔の様子を調べることを発掘調査といいます。まるで探偵みたいでワクワクする仕事です。調査をする理由は大きく分けて2つあります。1つは、教科書に載るような新しい発見を目指して歴史のナゾを解き明かす「研究」のための調査です。もう1つは、新しい道路や建物をつくる前にそこに埋まっている大切な歴史を「記録」するための調査です。もし調査をせず工事をしてしまうと、貴重な情報が壊れて永遠に失われてしまいます。壊れる前にしっかり調べて記録として残す必要があるのです。

発掘のやり方！

発掘調査は実はとっても繊細な作業です。遺跡を傷付けないように、シャベルなどの発掘道具を使ってそーっと土をどかしていきます。土の中から大昔の人の家の跡や使っていたお皿が見つかる瞬間はとってもドキドキです。

発掘調査の豆知識！！



発掘作業をしているよ

い・せ・きワールド in 前橋2026

— 令和7年度の発掘調査成果 —



総社平塚遺跡 (総社町)

地面の下から大きな穴がたくさん見つかったよ。なんの穴だろう。



昔の倉庫(白ぬり)の柱の跡を発見

おわりに

教科書には載っていない、みなさんのまちに住んでいた昔の人たちの生活を知ることができるのは、発掘調査のおかげです。どんな小さな遺跡も私たちの住む日本の歴史であり、昔の人が残してくれた宝物です。私たちは昔の人たちが積み上げてきた歴史の上に暮らしています。自分の住んでいる地域の歴史に誇りをもって大切にしていきたいですね。

未来まで
のこせるといいよね



漆が入った壺はこんな感じで見つかったよ

家の跡からは土器がたくさん！

むかしの毛抜き

朱い墨が付いた範囲

今から1300年くらい前のお話です。今の総社町総社には、山王廃寺という立派なお寺がありました。この遺跡は、その山王廃寺の西側にあります。ここにこども園が建つことになったので、発掘調査をしたところ、昔の倉庫の跡が15棟見つかりました。その中には、山王廃寺と同じころにつくられたものと、それよりもっと古い時代のものがありました。ほかにも、昔の人が住んでいた、たて穴の家の跡が35軒見つかりました。ふしぎなことに、倉庫がつくられる前と、なくなったあとの時代の家は見つかりましたが、倉庫があった時代の家は見つかりませんでした。もしかすると、その場所には「家をつくってはいけない」というきまりがあったのかもしれませんが。また、古い建物の跡が埋まりかけた場所から、漆を運ぶための小さな壺が見つかりました。壺の中には、漆が固まって残っていました。割られたところにも、漆がたれていたため、最後は割って、中身をかき出したのでしょうか。漆は、今でもお寺や神社の建物や、お椀などに使われている塗りものです。水をはじき、木を長もちさせるはたらきがあります。昔の人も、建物を長く使えるように、漆を塗っていたと考えられます。

地下をタイムトラベル！

深く掘れば掘るほど、古い時代になるよ。

深さの秘密！

数十センチで見つかることもあれば、みんなの身長より深いところで見つかることもあるよ。

土の色の謎？

昔の人が掘った穴には違う色の土が溜まるよ。この違いが遺跡発見の大きなヒントになるよ！

数千年前の指紋？！

土器には、造った人の指紋がそのまま残っていることもあるよ。大昔を身近に感じる瞬間だね。

どこに埋まってるかは掘ってみないとわからないニワ～

火山灰はストップボタン！
火山が噴火すると一気に灰が積もって大昔の村や田んぼがそのまま保存されることも！
火山灰は発掘調査の大きな手がかり！

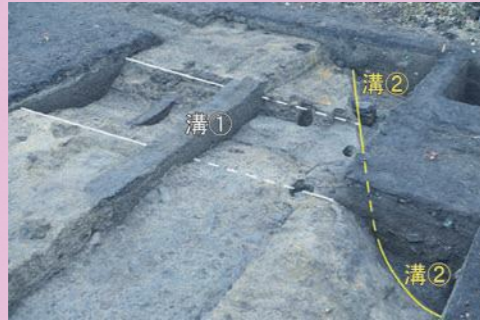
難解ジグソーパズル

土器や埴輪はバラバラで見つかることが多いので、模様を頼りに元の形に復活！

い・せ・きワールド in 前橋2026
令和7年度の発掘調査成果
前橋市教育委員会事務局 文化財保護課
令和8年3月発行
住所：前橋市総社町三丁目11-4
電話：027-280-6511 FAX：027-251-1700
Eメール：bunkazai@city.maebashi.gunma.jp

すいていこうげこく ふ あと もとそうじゃまち
推定上野国府跡 (元総社町)

今から1000年以上昔、群馬県が「上野国」とよばれていたころ、元総社町に現在の群馬県庁にあたる「上野国府」という役所があったと考えられています。この実態を解明するため、発掘調査を行っています。今年は、古代の倉庫群があった宮鍋神社の周辺で調査を行い、倉庫群を囲む溝①が見つかりました。溝①がつくられた後にできたと考えられる溝②は、形や大きさから、古代の役所に関するものと思われる。



新しい溝②が古い溝①をこわしているよ

もとそうじゃ おうみ いせき もとそうじゃまち
元総社蒼海遺跡群 (元総社町)

元総社蒼海地区のまちづくりにあわせて発掘調査が行われていて、今年で27年目になります。今年度は今から600年～400年前にかけて、この地にあった蒼海城の堀を調査しました。堀とは侵入者から城を守るために何重にも大きな溝をめぐらせたもので、過去の調査でも多くの堀が発見されています。これまで見つかった堀の断面は逆台形やV字形が多いですが、今回の調査では、下図のように東西で違う角度でつくられていることがわかりました。堀の底からは、中世から近世にかけてのお墓や供養塔である宝篋印塔の相輪（右下図参照）と土器が見つかりました。



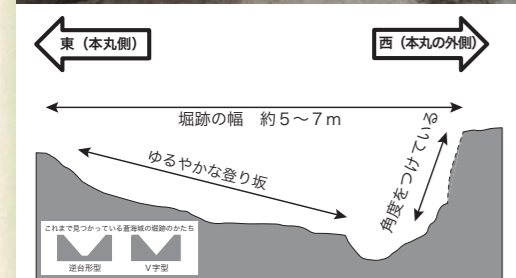
蒼海城絵図 (白丸が調査した場所)



相輪と土器が見つかった様子 宝篋印塔の全体図「日本石仏事典」より



遺物が見つかったところ



発掘された蒼海城の堀

はらの ごうしんやしき いせき ふじみまち
原之郷新屋敷遺跡 (富士見町)

奈良時代から平安時代にかけてのたて穴建物10軒が見つかりました。今から大体1300年から1100年ほど前のムラになります。たて穴建物では、東側の壁から当時の台所であるカマドがつくられていました。カマドの周りからは、当時の生活道具である土器も見つかりました。中には、食器に使われた土器や置き台として割れた甕を再利用して床に置いたものもありました。また、南壁の下には編み物に使ったおもり道具である細長い石がまとまっていた。家の中で簡単な布を織っていたのでしょう。



たて穴建物 (たてあなたてもの)



↑割れた土器を置き台として再利用 編み物のおもりに使った石がたくさん! ↑

前橋市では、毎年発掘調査を行っています。今年も昔の人たちの暮らしを知ることができましたので、みなさんにその一部をご紹介します。

まなび～昔の建物編～

たて穴建物・・・地面を円形や四角形に掘って、地面より30cm～100cmほど低いところに、床をつくる建物です。日本では縄文時代からつくられ、そこに家族単位で暮らしていました。今のお家に近いですね。土の壁に囲まれているため、冬は暖かく、夏は涼しい空間でした。現代のよう

な便利な道具はなくても知恵をだし合って暮らしていたんですね。



たて穴建物 (たてあなたてもの)

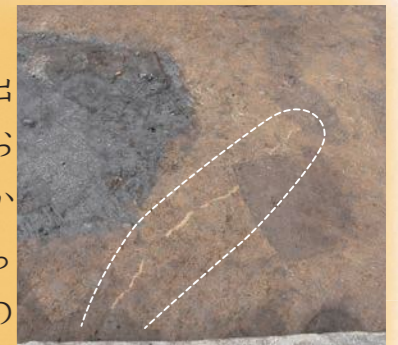
掘立柱建物・・・地面に穴を掘って柱を直接立て、その上に屋根や床をつくる建物です。地面を掘り下げないため、風通しがよいのが特徴です。大切な食料を守るために倉庫としてよく使われていたようです。他にも集会所や儀式など、時代が進むと地位の高い人のお家としても使われるようになりました。発掘調査で見つかるのは掘立柱の穴だけなのでどんな使われ方をしていたのか想像がふくらみますね。



掘立柱建物 (ほったてばしらたてもの)

とみだあらい に いせき とみだまち
富田新井Ⅱ遺跡 (富田町)

土坑からは縄文時代後期の土器が出ています。人が住んでいた痕跡は、およそ1200年前のたて穴建物が見つかりました。ほかには、818年に起こった地震によって、筋状の亀裂から下の土が噴き出す噴砂が見つかりました。



噴砂 (白線のなか)



主な時代区分

西暦	紀元前 35000	紀元前 10000	紀元前 200	300	600	710	794	1185	1338	1573	1603	1868	年
旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代	明治～		
					古代			中世		近世	近・現代		